

今日も子どもたちの元気な声から一日が始まりました。私、園長は持病の「ゼンソク」で、朝は遅くの出勤です。子どもたちから「おはようございま〜す」と迎えられるしょうもない園長は、日本広しといえど、私だけではないでしょうか。いつもこの元気な声で救われます。

幼稚園の仕事に携わってもう五十年です。

来年度からはまた一年目に逆戻りです。幼稚園業界も変動している今、まだまだ頑張らなくては・・・と、身も引き締まります。

園生活を振り返って思うのは50年前とても就職難でした。「大学は出たけれど・・・」という歌が流行った時代でした。幸運にも今の原宿の近くにある幼稚園に就職が決まり、ウキウキしていた矢先、退職予定の先生が辞めなくなり取り消しの通知が・・・。どん底です。最初のスタートはこのアクシデントからでした。それからの職探し。田園調布に近い園に拾われ、その園で先生としての基礎をみっちり仕込んでもらいました。「捨てる神もあれば、拾う神もある」あのアクシデントがなかったら、今の私はなかったと感謝しています。けれど、少し欲が出たんですね。当時、姉が区立の小学校に勤務していて、給料の差に愕然とし、恩がある園を辞めて、公立を目指すも失敗。アルバイトをし、次の年に又挑戦、みごと合格しましたが、私立と公立の保育の違いに失望、みんなの反対を押し切って、又私立に舞い戻り、今・・・があります。ず〜っと幼稚園教諭を続けてきました。途中、つらくてわかってもらえなくて、やめたい事も何度もありました。そんな悩んでいる時に良い条件の話が来るんですね。悩みました。悩んで悩んで、そして断って・・・、それでも悩んでそれまで思いつめたのになぜ？と、友だちみんなに言われました。それは「母」を裏切る気がしたからです。父のいない苦しい家計から学費を出してくれ、明日もわからない「ゼンソク」の持病をもった子を都会に出す時の覚悟を思うと、裏切れなかったんです。「母の愛」ですね。田舎の事だから近所の笑いものになったら母がかわいそうと思ったんです。私達の時代は高校に入学するのはまだ少なかった時代でした。母の悲しむ顔はみたくない、どんなにつらい事も我慢しよう「家族の愛」「母の愛」は強いんですね。そして、今があるんです。50年間です。自分でもビックリです。まわりの人に感謝、感謝です。これからは、まだ70才若いよ・・・、90才の人と比べて・・・と生きていこうと決めています。今年度の最終号で私の思い出を書きましたが、これから巣立っていく子らも、いろんな人生が待っている、どんなアクシデントにもめげないで、生きていって欲しいと願って書きました。

この幼稚園時代、確実に根っこが育ちました。人間の育ちの中心は「家族の愛」です。

「励ましのことば」「ほめてあげることば」他者と比べない・・・共に育つ「共育」・・・。

これから先、のびのびと健やかにそしてたくましい心をもった人間に育てられる事を願いつつ本年度の園だよりを終了とします。

ご家族の皆さまの「応援」「励ましてくださることば」が職員一同、
どんなに心に響いたか・・・。ありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。
心よりお礼申し上げます。



園長 白井 三根子